令和４年度“「長久手市役所の仕事」通知表”の作成（外部評価）③
令和４年８月５日　開催概要

開　催　概　要	
会議等の名称	令和４年度行政評価・外部評価③ **「清掃事業」【環境課】**
開催日時	令和４年８月５日（金） 午後２時から午後３時まで
開催場所	市役所北庁舎２階　第５会議室
出席者氏名 （敬称略）	＜外部評価実施者（行政改革推進委員）＞ 田村桂子、室　淳子、岡崎信久、細萱健一、近藤恵美子 ＜担当課＞ くらし文化部長　門前　健 環境課長　冨田俊晴 ごみ減量推進係長　大谷　悠 ＜事務局＞ 総務部長　加藤英之、総務部次長　福岡隆也、 行政課長　若杉雅弥、課長補佐　水草　純、庶務係長　佐藤雄亮
傍聴者人数	３人
問合せ先	長久手市総務部行政課　０５６１－５６－０６０５
備　　考	

外部評価実施者の意見等	（委員） 成果指標の１人あたりのごみ排出量について、平成２４年度当時に１７パーセント削減目標を立てたとの説明があったが、達成目標年はいつなのか。後の説明では、１５パーセント削減という数字も出てきたが、どのような違いか。 ⇒平成２６年度から令和５年度までに１７％削減という目標である。後者については、令和元年度実績から目標値まで１５％削減する必要がある。 （委員） １人当たりごみ排出量は平成２８年度までは減少し、その後横ばいに推移し、近年はコロナの影響等で増加しているとのことだが、平成２９年度から横ばいになった原因は分析しているか。 ⇒分析できていない。家庭ごみの組成調査の結果を見ると、プラ

	スチック製容器包装や紙ごみの混入が多いことが分かっている。 （委員） 分別ルールが市民に行き届いていないのかもしれない。市民への周知は十分に実施できているのか。 ⇒ごみ出しカレンダー、分別ガイドブックを全戸に配布し、ホームページでも公開している。また、スマートフォン向けアプリ「さんあ～る」を配信しており、分別種別を検索できる機能もある。アレクサという音声案内サービスにも対応するようにした。 （委員） 若い世代は紙媒体の資料は見ないのではないか。次世代教育を薦めることも必要だが、実際にごみ出しをしている人々を対象として啓発を行うべき。 ⇒若い世代にごみ分別アプリは魅力があるようで、インストール数は順調に伸びている。また、転入者に対して転入手続の際にごみ出しの案内をすることで、ごみ出しのルールを周知するようにしている。しかし、学生など一部の人は転入時に案内を受けない人もいるため、対策を考えていきたい。 （委員） 市民がごみ減量に対してどのような意識でいるかを把握しているか。行政からの一方通行では減量効果は生まれない。 ⇒地域説明会で市民の意見を聞くと、ごみを減らす必要性は概念としては理解しているようだ。また、近年の傾向としてごみ処理場の延命化のため等のごみに限った説明よりも、SDGs やカーボンニュートラル等の他問題と絡めて伝えた方がごみ減量の意欲がわくようであった。 （委員） ごみ減量を進める上で、ターゲットは意識しているか。極端に言うと、ごみ処理手数料の増額は裕福な世帯にはあまり効果がないと言える。

	⇒ごみ処理手数料の値上げは、国からも経済的な動機付けでごみの減量化を進めるようにとの通知があり、ごみを減らすための有効的な方法の１つとして提案している。市民の所得を分析したわけではない。 （委員） 分別啓発をどのように行えば個人が真剣に考えるのか、市だけで考えていても状況は変わらないので、地域に上手く入って状況を分析し、説得力のあるデータの提示やSDGsの話を絡める等工夫するべき。 （委員） 分別方法の周知について、忙しくて分別ガイドブックやアプリを見ることのできない人のため、ごみ袋の表面やごみ袋の包装ビニールに、混入してはいけないごみを掲載してはどうか。 ⇒現在は入れて良いものを掲載している。検討する。 （委員） ごみ処理手数料の値上げはごみ減量を促す方法であるが、市民にとっては単にごみ袋の値段が上がると思われてしまうこともあるのではないか。値上がりした分をどのように市民に還元するのか、オープンにしていくべき。 ⇒令和３年８月に値上げについて市民に周知した際に増収分の用途も書いたが、値上げのことだけが目立ちすぎてしまった。見せ方の工夫が必要だったと感じた。 （委員） ごみ減量説明会を実施し、市民の反応はどうか。 ⇒最も多いのは、話だけ聞きにきたという市民。市の話は理解したが、賛成と声を発するわけではない。他には、生ごみや紙おむつ等、減量が難しいごみはどうしようもないとの声があった。 （委員）

	ごみ処理手数料増額による減量効果は、最初は話題性で減量が進むが、一時的だと思う。やはり分別を徹底的に周知する必要があると思う。 （委員） 市民への伝え方として、ごみを減らさないと怖い未来があるという方法も効果的だと思う。店のごみ袋売り場に、地球温暖化の危険性を書いたものを掲示するなど。 （委員） 資源を回収する場所が市内に多くあると良い。学校や商業施設等。生ごみは農業の場と連携できると減量が進むかもしれない。試みていることはあるか。 ⇒資源回収ステーションであるエコハウスを、今年度さらに増設する予定である。生ごみのたい肥化は、マッチングが難しく実現していない。今年度も生ごみの減量施策については模索していきたい。 （委員） 成果指標の設定について、清掃事業の成果指標は家庭から出るごみの量としているが、中事業である循環型社会推進事業のアクションプラン指標では、家庭ごみに事業系ごみの量を加えた量を指標としている。事業系ごみへのアプローチはどのようか。 ⇒事業系ごみの排出量も把握している。令和４年度に初めて事業系ごみの組成調査を実施した。きちんと分別されており、優秀な結果だった。 （委員） 今後の事業の方向性について、ごみ袋の価格を増額し、とあるが、増額によって当初目標の１７パーセント削減を達成することができるのか。 ⇒令和５年度末は間に合わないかもしれないが、短期的に強い影

	響を及ぼすと思われるので、令和６年度あたりには達成できると考えている。値上げだけではなく、分別品目を増やす等して減量を進めていきたい。 （委員） 中長期の目標を見ると抽象的なことしか書かれておらず、値上げのことしか考えていないように感じるが、何か具体的に策はあるのか。 ⇒現在検討している追加する分別品目は、プラスチック製品である。まだリサイクルルートを開拓できていないが、プラスチックの分別は待ったなしと考えている。また、生ごみや剪定枝についても重量を減らす工夫ができないか考えている。

講評・まとめ	・なぜごみを減らさなければならないのかを、丁寧に分かりやすく市民に伝えていく必要がある。説得力のあるデータの開示、SDGsやカーボンニュートラルと絡めた説明を行うと若者等にも伝わりやすいと思う。 ・ごみ減量説明会やパンフレット配布もいいが、市民の目につきやすいごみ袋売場やごみ袋の外包装に、ごみ減量が必要である理由を表示すると良い。